

四半期報告書

(第88期第3四半期)

アツギ株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
2 【その他】	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	15

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月3日

【四半期会計期間】 第88期 第3四半期
(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 アツギ株式会社

【英訳名】 ATSUGI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤 本 義 治

【本店の所在の場所】 神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号

【電話番号】 046(235)8104

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理部長 岡 田 武 浩

【最寄りの連絡場所】 神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号

【電話番号】 046(235)8104

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理部長 岡 田 武 浩

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第87期 第3四半期 連結累計期間	第88期 第3四半期 連結累計期間	第87期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	17,962	17,987	23,100
経常利益 (百万円)	775	1,082	758
四半期(当期)純利益 (百万円)	377	686	302
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	706	2,342	2,350
純資産額 (百万円)	43,972	47,442	45,615
総資産額 (百万円)	52,184	56,388	53,868
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	2.23	4.06	1.79
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.1	83.9	84.5

回次	第87期 第3四半期 連結会計期間	第88期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.38	2.66

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策などにより、円安や株高が継続し、一部では企業業績向上や消費動向の改善など、景気回復の兆しが見られています。しかしながら、消費税率引き上げによる景気減速の懸念や、不安定な世界経済などの影響を受け、本格的な安定成長を実感するまでには至っておらず、引き続き先行き不透明な状況で推移をしております。

繊維業界においては、消費動向の改善は見られず、円安によるエネルギーや輸入コストの増加に加え、企業間競争の激化などにより依然として厳しい環境にあります。

このような状況において当社グループは、原料加工から最終製品までを一貫生産し販売する専門メーカーとしての特性を活かし、価格を上回る価値ある商品の企画開発と、グループ全社を挙げて効率性アップに取り組み、収益改善に努めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は17,987百万円（前年同四半期比0.1%増）、営業利益は604百万円（前年同四半期比21.7%減）、経常利益は1,082百万円（前年同四半期比39.5%増）、四半期純利益は686百万円（前年同四半期比81.8%増）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次の通りであります。

[繊維事業]

靴下部門はプレーンストッキングやプレーンタイツのブランドとして定着してまいりました「ASTIGU（アスティグ）」をはじめとするベーシック商品は引き続き順調に推移しましたが、ファッション商品やソックスの伸び悩みなどもあり、同部門の売上高は15,228百万円（前年同四半期比0.7%増）となりました。

インナーウェア部門はショーツ等は堅調に推移しましたが、全般的に厳しく、同部門の売上高は1,968百万円（前年同四半期比4.2%減）となりました。

これらの結果、繊維事業の売上高は17,196百万円（前年同四半期比0.1%増）、営業利益は281百万円（前年同四半期比39.1%減）となりました。

[不動産事業]

不動産事業は長引く不動産不況の影響を受け、厳しい状況が続いておりますが、当事業の売上高は465百万円（前年同四半期比2.8%増）、営業利益は329百万円（前年同四半期比4.9%増）となりました。

[その他]

その他の事業につきましては、介護用品の市場環境の変化などにより、厳しい状況が続いております。当事業の売上高は326百万円（前年同四半期比2.5%減）、営業損失は6百万円（前年同四半期は3百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は56,388百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,520百万円増加いたしました。これは主に、投資有価証券の増加1,128百万円、たな卸資産の増加389百万円、および売上債権の増加342百万円等によるものであります。

負債の部は8,946百万円となり、前連結会計年度末に比べ692百万円増加いたしました。これは主に、繰延税金負債の増加391百万円、未払法人税等の増加295百万円等によるものであります。

純資産の部は47,442百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,827百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益を686百万円計上しましたが、前期決算に係る配当金506百万円による減少や、その他の包括利益累計額の増加1,643百万円等によるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は83.9%（前連結会計年度末は84.5%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた問題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は293百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	391,039,000
計	391,039,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月3日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	188,195,689	188,195,689	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	188,195,689	188,195,689	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	—	188,195,689	—	31,706	—	7,927

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年9月30日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 19,367,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 165,990,000	165,990	—
単元未満株式	普通株式 2,838,689	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	188,195,689	—	—
総株主の議決権	—	165,990	—

(注) 1. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式80株が含まれております。

2. 「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が900株含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
アツギ株式会社	神奈川県海老名市 大谷北1丁目9番1号	19,367,000	—	19,367,000	10.29
計	—	19,367,000	—	19,367,000	10.29

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,948	8,208
受取手形及び売掛金	3,874	4,217
商品及び製品	3,821	4,191
仕掛品	2,201	2,218
原材料及び貯蔵品	694	698
繰延税金資産	90	10
その他	634	1,061
貸倒引当金	△18	△14
流動資産合計	19,246	20,590
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,026	5,993
機械装置及び運搬具（純額）	3,396	3,419
工具、器具及び備品（純額）	112	113
土地	16,456	16,456
建設仮勘定	169	202
有形固定資産合計	26,162	26,185
無形固定資産	443	440
投資その他の資産		
投資有価証券	7,258	8,387
繰延税金資産	0	0
その他	757	787
貸倒引当金	△0	△3
投資その他の資産合計	8,016	9,171
固定資産合計	34,621	35,797
資産合計	53,868	56,388

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,610	2,711
未払法人税等	87	383
賞与引当金	128	40
繰延税金負債	—	93
その他	1,213	1,184
流動負債合計	4,040	4,414
固定負債		
繰延税金負債	304	602
再評価に係る繰延税金負債	2,152	2,152
退職給付引当金	1,245	1,285
その他	509	491
固定負債合計	4,212	4,531
負債合計	8,253	8,946
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,706	31,706
資本剰余金	9,397	9,397
利益剰余金	5,524	5,703
自己株式	△1,884	△1,891
株主資本合計	44,744	44,915
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,083	1,813
繰延ヘッジ損益	146	372
土地再評価差額金	△751	△751
為替換算調整勘定	278	965
その他の包括利益累計額合計	757	2,400
少数株主持分	114	127
純資産合計	45,615	47,442
負債純資産合計	53,868	56,388

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	17,962	17,987
売上原価	11,900	12,296
売上総利益	6,062	5,690
販売費及び一般管理費	5,290	5,086
営業利益	771	604
営業外収益		
受取利息及び配当金	159	166
持分法による投資利益	20	15
為替差益	—	299
その他	89	73
営業外収益合計	268	555
営業外費用		
減価償却費	19	16
租税公課	35	28
為替差損	168	—
その他	42	32
営業外費用合計	264	77
経常利益	775	1,082
特別利益		
投資有価証券売却益	16	4
特別利益合計	16	4
特別損失		
固定資産除却損	8	7
投資有価証券評価損	0	—
投資有価証券売却損	3	—
ゴルフ会員権評価損	4	—
特別損失合計	16	7
税金等調整前四半期純利益	776	1,079
法人税、住民税及び事業税	274	369
法人税等調整額	130	25
法人税等合計	404	395
少数株主損益調整前四半期純利益	371	683
少数株主損失(△)	△5	△3
四半期純利益	377	686

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	371	683
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△392	729
繰延ヘッジ損益	436	226
為替換算調整勘定	273	656
持分法適用会社に対する持分相当額	16	47
その他の包括利益合計	334	1,659
四半期包括利益	706	2,342
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	705	2,329
少数株主に係る四半期包括利益	1	13

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	815百万円	803百万円
のれんの償却額	24 "	24 "

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	518	3	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	506	3	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	繊維事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	17,175	452	17,628	334	17,962	—	17,962
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	—	1	—	1	△1	—
計	17,177	452	17,630	334	17,964	△1	17,962
セグメント利益又は損失(△)	461	313	775	△3	771	—	771

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護用品の仕入および販売であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	繊維事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	17,196	465	17,661	326	17,987	—	17,987
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	—	2	—	2	△2	—
計	17,198	465	17,663	326	17,989	△2	17,987
セグメント利益又は損失(△)	281	329	610	△6	604	—	604

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護用品の仕入および販売であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	2円23銭	4円06銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	377	686
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	377	686
普通株式の期中平均株式数 (千株)	169,532	168,838

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月3日

アツギ株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 明 典 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 英 志 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寶野 裕 昭 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアツギ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アツギ株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月3日

【会社名】 アツギ株式会社

【英訳名】 ATSUGI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤 本 義 治

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長藤本義治は、当社の第88期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

